

アートを活かした人材育成と都市価値向上へ。 ～大阪・関西の未来を文化の力でつくる～

【提言の視座】

文化の力で、次世代を担う人材の育成と、
大阪・関西の都市価値の向上を。

①文化の価値・可能性

文化の力は、未来に向けて新しい価値を創造するイノベーションを促進する。

- 日本と世界は今、大きな変革の時を迎えている。企業間・都市間・国家間の競争が激化している。
- 未来へ向けた新しい価値を生み出すための思考と感性が求められている。
- 今、「文化の力」は、イノベーションを促進し社会を牽引する存在へと転換しつつある。

②大阪・関西の文化の力

大阪・関西は豊かな文化資源を持つ。
この文化の力を活用すべき。

- 大阪・関西は長い歴史を有し豊かな文化資源が集積している。
- 文化の力を活用することによって、大阪・関西の都市価値を高め、大阪・関西に暮らす人々の生活の質（QOL）を向上させ、未来を切り拓く次世代人材の育成に取り組むことが重要である。

③文化を活用したアクティブ・ラーニング

文化の力を活用したアクティブ・ラーニングは、次世代を担う子どもたちの「生きる力」を育てる。

- 未来を担う次世代の人材として子どもたちの育成は重要。
- 知識・経験を一方的に「押し込む」形だけではなく、子どもたちの資質・能力・可能性を「引き出す」形の教育（アクティブ・ラーニングの視点）が、変化する状況に自律的に立ち向かう「生きる力」を育てる。
- 子どもたちの「生きる力」を育てるために、関西の強みである豊かな文化の力を活かす。
- ひとつの手法として、我々は「対話型鑑賞※」に着目した。

※対話型鑑賞：鑑賞者同士のコミュニケーションを大切にして美術作品を鑑賞する。『みる・考える・話す・聴く』という4つの能力を普段よりも意識的に使い、作品の表面ではなく、その奥にある意味を考える手法。

④大阪・関西のフィランソロピー精神

我々大阪・関西の経済界が、フィランソロピー精神の伝統にもとづき、率先して主体的に動くことが重要である。

- そもそも大阪・関西の経済人は、フィランソロピー精神の伝統を持っている。
- 文化の力を活用し、次世代人材を育成するとともに、大阪・関西の都市価値を向上させるために、まず経済人が率先して自ら動くべきであると考えた。
- できる限り多くの人が積極的に文化と芸術に触れ、多様性を受容しつつ貴重な体験ができる環境づくりを、経済団体も主体的に連携してサポートし、地域の活力創出につなげたい。

民間主導の 社会実験の開催

コーポレート・
アート・
コレクション
「なにわの企業が
集めた絵画の物語」
展
(全3回予定)

【開催趣旨】

- 大阪・関西の強みである分厚い文化基盤を活かすことで、発想力や感受性が豊かな次世代人材の育成に貢献する。企業所有の文化芸術作品を、広く一般に公開することで、大阪・関西の都市の価値を高める。
- 豊かな芸術・文化体験を通じて、大阪・関西の市民の文化リテラシーを高める。特に、次世代を担う子どもたちの感性を育む鑑賞プログラムを提供する。
- 民間主導の社会実験として小規模にて開催し、その成果をもとに、2021年度開館予定の大阪中之島美術館に引き継がれるよう、開催の内容を踏まえ大阪市ほか関係先に対し提言を行う。

【提言】

対象：大阪市、地方独立行政法人 大阪市博物館機構、大阪中之島美術館

文化と芸術は人間にとって不可欠である。多くの人が積極的に文化と芸術に触れ、多様性を尊重しつつ貴重な体験ができる環境づくりに向け、我々経済界は、自らが地域文化の支援のため、具体的に広がりを持った行動に取り組む機運を今後も継続して高めていくとともに、大阪中之島美術館をはじめとした大阪市立美術館のあり方について、大阪市ほかの関係先に対して、以下の通り提言する。

① 大阪市内の子どもたちを対象に、美術館におけるアートを活かしたアクティブ・ラーニングの機会の継続的な提供を。

未来の創り手としての子どもたちを対象に、大阪中之島美術館をはじめとした大阪市立美術館に対して、予測困難な時代を「生きる力」を、文化の力を活用して育てる教育活動を継続的に実施するよう望みたい。
大阪市内のすべての小学生が、在学中に少なくとも1回は、本物の美術品に触れ、たとえば対話型鑑賞教育のように、「答のない問い」に主体的に取り組む機会をつくってほしい。
美術館と学校との連携を進めるために必要な予算措置を、大阪市および関係先が持続的に講じるよう求めたい。

② 一方向的な鑑賞機会の提供にとどまらず、市民自身が美術館の担い手として能動的に参加できる機会の提供を。

美術館の活動が地域に根つき拡がることを目的として、大阪中之島美術館をはじめとした大阪市立美術館に対して、意欲の高い市民が美術館を支えるボランティアなどとして参加することや、市民自身がアクティブ・ラーニングに参加できる機会を広く提供することを望みたい。
鑑賞者への教育活動などの担い手として、美術館に関して能動的に関わりたいという市民意識に広げてほしい。
美術館自身が市民に対して積極的な広報活動に取り組むことで、美術館の取り組みについて広く社会の認知を高め、市民の能動的参加意欲を高めるよう求めたい。

③ 大阪・関西の都市価値を高めるため、夜間開館、イベント開催、周辺地域との連携など、市民に開かれた新しい美術館のあり方の実現を。

大阪・関西の文化の土壌を育むため、歴史と伝統が生み出した豊かな文化について、大阪中之島美術館をはじめとした大阪市立美術館に対して、広く一般市民が体験しやすい機会を拡大するよう望みたい。
たとえば、現役世代でも平日の夜間に気軽に美術館を楽しむことができる環境を整えたり、コンサートなど様々なイベントを開催することで美術館を訪れるきっかけを増やしたり、あるいは近隣の店舗や施設等との積極的な連携により美術館を核として地域の活力を増進したり、といった様々な活動に積極的に取り組む、市民に開かれた美術館づくりに取り組んでほしい。
創造力の源泉である文化の可能性を信じ、広く市民に文化の力が日常的に行き渡ることで、大阪・関西の都市価値を高め国際都市間競争に打ち勝つよう、継続的に努めてほしい。美術館を一つの核とした都市の文化力向上に向けて、大阪市および関係先が、意志ある企業・市民と行政との継続的なコミュニケーションの場づくりに取り組むことを求めたい。

社会実験の開催概要と、得られたこと

【開催概要】

◎総合監修：橋爪節也氏（大阪大学総合学術博物館／大学院文学研究科 教授）

◎第1回：堂島リバーフォーラム 4Fギャラリー
2018年10月4日（木）～18日（木）10時～20時
※会期中無休（但し、最終日は18時まで）

◎第2回：大阪府立江之子島文化芸術創造センター
2020年1月24日（金）～2月15日（土）10時～20時
※月曜休館（但し、最終日は18時まで）

◎第3回（予定）：大阪府立江之子島文化芸術創造センター
新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言発出のため、開催日程未定（調整中）
※対話型鑑賞のみ別会場（学校への出前形式）にて実施済み。

◎展示：大阪・関西企業が所有する身近な芸術作品
第1回：24点／第2回：44点／第3回（予定）：45点

◎入場料：大人500円／中学生以下無料

◎主催：関西経済同友会 企業所有美術品展 実行委員会

◎協賛企業・個人：
第1回：企業39社、個人9名／第2回：企業73社、個人10名／
第3回（予定）：企業84社、個人8名

【来場者数】

◎総来場者数：
第1回：4,636名／第2回：4,661名

◎対話型鑑賞教育 参加者数（協力：京都芸術大学）：
第1回：725名／第2回：830名／第3回：183名

【社会実験から得られたこと】

- 「答のない問いに対して対話を通じて行う授業モデル」の社会実験として、子どもたちを対象とした「対話型鑑賞」を実施したところ、参加した小学生、教員の双方から、きわめて高い評価を得ることができた。
- 来場者に対して、「対話型鑑賞」のナビゲーターを務めたいか、意向を検証したところ、美術館に関して能動的に関わりたい意欲を持つ市民が一定数存在することが確認できた。
- イベント開催や周辺店舗との連携などを通じて夜間開館の社会実験を実施したところ、平日夜間の来場者を一定数実現できた。